

新たな目的と組織のもと 原点を踏まえた活動をスタート

UN Women日本国内委員会は、2012年の総会で定款改正を行い、新しい目的と組織のもと、新しいスタートを切りました。目的については、国連で、UN Womenの新設でジェンダー問題の主流化が図られたのに伴い、日本国内委員会も、途上国の女性支援からUN Womenの6つの目的に対応できるよう活動の範囲を広げたものです。組織については、認定NPOとして、公益法人改革の流れに沿い、理事の数を減らして執行機関として実務を行う体制を整え、同時に評議員会を新設して、組織の公益性と透明性をいっそう確保しようとしたものです。

いま、理事会は執行機関として目覚ましい活動を始めています。広報、事業、企業、国際、総務の各担当理事は、それぞれ協議を重ねて具体的計画を検討し、月1回の理事会で全員討議を行うという方法が確立してきました。改革はまだ緒に就いたばかりですが、時代のニーズに応え、社会に貢献する組織であるという原点を大切にしたい提案が行われる

理事長 有馬真喜子

るはずです。評議員会についても、やはり公益法人改革の流れに沿いながら新設は具体的に進んでいます。



地域等委員会から名称を変更した各地の構成委員会や会員の方々からは、次々に活動計画やご提案が届いてうれしい限りです。国連からの承認協定案はまだ届いていませんが、日本国内委員会は、今後とも、みなさまと手を携え、同時に多くの関連機関・組織、行政、企業、学会などと手を携えながら歩みを進めてまいりたいと願っています。

■新しい理事会のメンバー構成

- ・理事長 有馬真喜子
- ・副理事長 岩田喜美枝、三隅佳子、渡邊皓子
- ・理事 五十嵐康子、大槻明子、渋谷典子
鈴木賀子、高橋敏江、高橋克子
平野和子、平松昌子、三輪敦子
宮坂洋子、目黒依子、吉川真由美
- ・監事 遠藤みち、酒井興子

祝! 「みやぎジョネット」が

「女性のチャレンジ賞特別部門賞(防災・復興)」を受賞

東日本大震災で被災した女性・少女の支援に活動している「みやぎジョネット」が内閣府「女性のチャレンジ賞特別部門賞(防災・復興)」に輝きました。『みやぎジョネットのチャレンジは自らの意欲と能力によって未来を切り開いていく「防災・復興」のロールモデルとして傑出したもの』として受賞されました。

現在、「みやぎジョネット」は、UN Women日本国内委員会からの「東日本大震災女性・少女特別募金」の支援を受け、被災女性や少女のたまり場として設置した「トレーラーハウス」の運営に奔走中です。今後の活動に期待をこめて、受賞のご報告を申し上げます。

皆様のご協力により、2011年度の拠出金は、
658万4472円（8万1410ドル39セント）となりました。

これによる支援プロジェクトは以下に決定し、5月9日、UN Women本部へ送金しました。

① グローバル・ユナイト・ユース・フォーラム

「女性に対する暴力撤廃キャンペーン」のうち若者によるワークショップの開催費用（於：バンコク）
2,426,400円（30,000米ドル）

② 女性に対する暴力撤廃信託基金 929,173円（11,488.30米ドル）

③ カンボジアにおける竹製品の品質の向上と流通の改善を通じて
女性の経済的エンパワメントを高めるプロジェクト

1,528,899円（18,903.30米ドル） 資生堂花椿基金&資生堂より

④ アチェにおける女性と平和・安全保障プロジェクト

1,700,000円（21,018.79米ドル） UN Women大阪アジア基金より

① UN Women日本国内委員会が支援した
グローバル・ユナイト・ユース・フォーラムがバンコクで開催されました！

2012年5月22日から24日まで、バンコクで、グローバル・ユナイト・ユース・フォーラム (Global UNiTE Youth Forum) が開催されました。ユナイト (UNiTE) は、バンギムン事務総長の呼びかけで、2008年11月25日の「女性に対する暴力根絶デー」に始まった「女性と少女に対する暴力への対応と予防」を目的とする世界規模のキャンペーンです。バンコクのフォーラムには、世界の25以上の国々から40人を越える男女の若者が集まり、女性と少女に対する暴力をなくすための効果的な方法や戦略について経験を共有し、意見を交わしました。フォーラムの最後に、参加者はユナイト若者宣言に署名し、宣言を、国連の「ジェンダー平等と女性のエンパワメントに関するアジア太平洋地域作業部会」の共同議長である石川祥子さんとナンダ・クライリクシュさんに手渡しました。今回のフォーラムをきっかけに、グローバル・ユナイト・ユース・ネットワークを設立することにも参加者は合意しました。



フォーラム風景

皆さまからの寄付による拠出金のおかげで、フォーラムを成功裡に終わらせることができた。UN Womenバンコク事務所の担当官からお礼のメールと写真が届いています。



Tシャツの背中には、フォーラムの開催を日本国内委員会が支援したことが明記されています。

③ カンボジアにおける竹製品の品質の向上と流通の改善を通じて、女性の経済的エンパワメントを高めるプロジェクト



UN Women日本国内委員会への期待

“全国友の会”様より

“全国友の会”は2006年にユニフェム日本国内委員会団体正会員となりましたが、それ以前もユニフェムについて支援してまいりました。しかし、会員となって総会の出席や報告を拝見することが多くなり、ますますその活動が活発に、また多くの方の支援を受けて拡がっていくことを願わずにられません。

世界中でまだまだ女性に対する差別、虐待など多大な問題があるにもかかわらず、日本ではそのことが広く知られず、多くの人に関心を持つ状況が少ないように思います。またユニセフなどに比べても国連組織 UN Women に対する知名度も低いように思います。その原因が何なのか、またその問題が何故見えにくく、もっと取り上げられないのかと考えてみると、一つには女性に対する虐待、差別の実態が比較的閉鎖された家庭、公にみえにくい場所で行われていることにも起因するのではないかと思います。他人が入り込みにくい

ところで差別や虐待が起こっていることに対しては、掘り起こしは非常に難しく、当事者が声を上げることにも勇気がいることがあるように思います。

私たちの団体“全国友の会”の創立者は戦前から「家庭は私事ではない、公のこと」と考え、当時の家庭の中で「個人の人格を軽んじて、妻を重宝な道具扱いする」ような事があってはならないと訴えてきました。

女性が安全な暮らしを確保でき、その声が反映できるよう、世界のどこかに、隠れた見えにくい虐待や差別がないか、UN Womenの果たす役割は大きいと感じています。

女性も男性も、世界の実情と、それに向き合う UN Womenの活動、またそのための支援について、もっともっと機会をとらえて、広報活動に力を入れる必要を感じます。

私たちの団体もそのことを心して支援し、周囲の人に伝えていかなければと思います。

岩城昌子様より (前エイボン女性文化センター事務局長)

「天の半分」

最初にユニフェム日本国内委員会の皆様がこれまで開発途上国の女性支援、また国内では各地域で女性の活動の支援に取り組んでこられた誠意ある活動に対して、心からの敬意を表します。

国連組織が改変され、今回 UN Womenとしてスタートするにあたり、これからは先進国として開発途上国の女性支援はもちろんのこと、先進国特有の課題の問題に対しても率先して取り組み、「目に見える」形で社会の中で存在感を示していただきたいと思います。

今、世界はグローバル規模での財政破綻の危機、若者を始めとした失業者の増大など未曾有の問題に直面し、私たちは次世代のために何をすべきか鋭く問われています。振り返って日本を見てみると、日本は先進国の中では最初に超高齢化社会に突入する国であり、深刻な人口減少社会を迎えようとしています。世界は私たちが先駆けとして、どのように問題解決に取り組むか関心をもって注目しています。

日本では行政、企業、市民、地域レベルで直面する問題解決のために、実に様々な団体が素晴らしい活動を続けています。政府も総力をあげて女性の社会参画の支援を始め、タイミングは出揃いました。しかしその活動の中心となり、発信する機能が見当たらないため、大きなうねりを作りきれていないのが現状ではないでしょうか。

この閉塞状況を打破し、新しい社会を作っていくためにUN Womenこそが日本の中で女性の活動を支援し、中心的な役割を担っていけることと確信しています。まずは ●UN Womenの知名度をあげ、●女性の情報のハブとなり、●女性の活動の起点となり、●活動を発信していくことを通して「一歩、前へ」進めていただきたいと思います。

中国の諺に「女性は天の半分」という言葉があります。「天の半分」の女性が幸福であれば世界は幸福になるという意味です。まだ誰も経験したことのない社会に突入していく中で、「天の半分」を支える女性たちの活躍をど真ん中で牽引していく強いリーダーシップを発揮していただくことを大いに期待いたします。心から応援しています。

CSW期間中に開催された日本国内委員会連絡会

国連で開催された 第56回CSW (国連婦人の地位委員会:2012年2月27日～3月9日)の期間中、恒例の国内委員会連絡会が3月1日に実施され、日本からは原ひろ子前副理事長が参加しました。今回は14の国内委が出席し UN Women事務次長ラクシュミ・プーリ氏の歓迎の挨拶から熱心な討議が展開されました。

まず、UN Womenから前回の連絡会(2011年9月オーストラリアで実施。日本は欠席)で合意された行動計画の進捗状況は順調に進んでおり、UN Womenは行動計画の時系列に従ってツールや評価基準を検討中で、EXT RANETでアクセスできるよう準備しているとの報告がありました。

ついで、プーリ氏は UN Womenグローバル市民社会諮問グループ(市民社会とUN Womenとの定期対話の場で、政策、情報、提唱問題を話し合い、メンバーは一年おきに交代)について、諮問グループメンバーの大半は途上国出身者で占められている、専門分野の視点で意見を述べる諮問グループの役割と国内委の機能とを混同しないことが重要であり、国内委の強みは提唱活動を推進し、自国内で UN Womenのメッセージを広めることだと強調しました。

オーストラリア国内委のスカリパ氏から「UN Womenから、国内委員会は募金能力を高めるよう求められている」との発題があり、それに対して、オーストラリア国内委のマッケイ氏がオーストラリアのビジネスモデルを紹介し、国内委がスタッフを雇用することが拠出金の増額に寄与するとの見解を述べ、議論が続きました。マッケイ氏は企業とのパートナーシップとして、民間部門戦略、女性のエンパワーメント原則の活用方法などについても説明しました。英国国内委のクーバー氏は企業を会員にすることが募金の増額に寄与していること、カナダ国内委がエアカナダの機内誌に自らの活動を広告して効果をあげていることを紹介しました。各国国内委もそれぞれ自国の成功例、問題点を発言しました。

最後に、UN Womenパートナーシップ部門等の担当部長ヘトル氏は国内委のキーワードは多様性であるとし、各国の国内委は文化的にも財政的にも異なるが、お互いに多くの

ことを学び合うことが大切であり、国内委には、UN Womenが活用したい潜在能力があり、今後もそこに期待をしていると結びの言葉を述べました。

なお、2012年度国内委員会連絡会はイギリスで、2013年度はイタリアのトリノで開催される予定です。(国内委員会連絡会議事録より)

リエゾンオフィスからの近況報告「おたより」



ミユキ ケルクホフ
UN Women日本事務所 所長代行

UN Women日本国内委員会の皆さま、こんにちは。今回、ジェンダー平等と女性のエンパワーメントのために、皆さまとともに行っている活動の最新情報をお伝え出来ることを、大変光栄に存じます。

UN Womenの活動開始から一年半が経ち、執行理事会は2度目の年次会議を終えた所です。限られた資源で顕著な進展を遂げ、将来への基礎を固めることが出来ました。世界中の女性と女兒の生活向上を効率的に実行出来るように、引き続き能力向上と、組織の強化に努めて参ります。このために、UN Womenはその使命をよりよく果たせる新たな地域組織の構築を考えました。

今後1-2年の間に、UN Womenは本部をニューヨークに置いたまま、5地域のリージョナル・オフィスを設立し、機能を分散化して、各国事務所が地域レベルで影響力と効果を最大化し、また資源やスタッフを集約することで能力の強化を図れるように、調整していく

予定です。これからの発展を期待し、一緒に UN Womenの歴史の目撃者となるのを楽しみにしましょう。

日本事務所は、今回の地域組織再構築の枠組みには入っていませんが、日本国内での展開もすばらしいものでした。2012年、UN Womenへの日本の拠出金は昨年度の2倍になりました。UN Womenは、日本政府並びにその陰で懸命にご尽力下さった皆さまに、大変感謝しております。

さらに、女性の経済的エンパワーメント達成のために、ミシェル・バチェレ事務局長は、WEPs(女性のエンパワーメント原則)に署名する企業が2015年までに500社となることを目標としています。2012年6月現在、世界で既に430社の署名が集まり、日本では150社近くの最高経営責任者(CEO)が取り組みを約束し、その数は今も伸びているというお知らせが出来ることを、非常にうれしく思います。ご存知の通り、世界の女性管理職の平均割合が20%である一方、日本では世界平均より低い8%です。

女性の経済的エンパワーメントのためには、もっと取組が必要と判断した内閣府は、男女共同参画推進連携会議「国際的に連携した女性のエンパワーメント促進」チーム内に連絡会を設け、関係各方面でのWEPsの活用を積極的に促すこととなりました。そのメンバーは、大手企業社長・女性団体・学校法人・企業組織・行政機関等で、全員がWEPsに強い関心を示しています。より多くの企業がWEPsに署名する意思を示すだけでなく、各社の経営方針や戦略に効果的に組み入れていることを大変楽しみにしております。

さらに、今秋、バチェレ事務局長が来日されるものと期待し、それと同時に、来年のCSW(国連婦人の地位委員会)のテーマでもある女性に対する暴力撤廃についても課題として取り上げたいと思っています。

日本の内外で、ゆっくりではありますが、確実に、ジェンダー平等と女性のエンパワーメントの実現に向けて前進しています。この共通のビジョンの実現のために、皆さんと緊密に協力しつつ活動していきたいと思っています。

UN Women 北九州

UN Women北九州では、去る3月31日(土)に、2012年度の総会及び特別講演会を開催しました。

総会では、2011年度事業報告・決算、2012年度事業計画・予算が承認、決議されました。また、2012~2013年度の役員改選案についても、審議、承認されました。



総会終了後、UN Women日本国内委員会から有馬真喜子理事長をお招きし、「世界の女性の羅針盤—UN Womenの現在とこれから」と題して、特別講演会を開催しました。UN Womenが誕生して1年が経過した今、ユニフェムからUN Womenになって何が変ったのか、あるいは今後何が変っていくのか、また、私たちはどのような活動をすればよいのか、これからの活動の指針となる貴重なご講演をいただきました。

事務局長 河野賢司

UN Women 多摩

一年かけて、名称の変更と理由と内容的、活動的には変わらないということを会員の皆様にお知らせし、ご理解をいただくために名称変更が一年遅れましたが、2月18日日野市で初めて総会を開き、会員皆様の承認をいただき、名称を変更いたしました。事務局のある昭島市にも届けました。

毎年総会の後、チャリティーコンサートを行っていますが、こしはモンゴルホーミーと馬頭琴のコンサートを行いました。日野市では初めての公演で、会場から人があふれる状態でした。でも誰も文句一つ言わず、最後まで聞いていただけたことと、その場で入会して下さった方がいたり、広報活動としては成功でした。

今年が多摩地区のいくつかの市でこのようなチャリティーコンサートを開きながら、UN Womenの活動を広めていきたいと考えます。

役員も昭島市、羽村市、小金井市、三鷹市、日野市、府中市といろいろな市にまたがっているため、役員会で全員が揃うことはなかなかむずかしいのですが、その分広くUN Womenの活動を広げていくことができます。今年が役員改選の年でもあり、まだ動きはゆっくりですが、後半から来年に向けて広報活動に力を入れていきます。事務局 小川裕未

UN Women 佐賀

2012年3月30日（土）、日本庭園が見事な旧家を借り切って、総会を開催。とくに、年間を通して外国人育児サークルへの支援を今年も取り組むことを確めました。また、これを機会に「UN Womenのパネル」を新調しました。



記念講演は、『これからの経済とわたしたちの暮らし～こんな時代だからこそ考えたい～』と題して、日本銀行佐賀事務所長である田尻隆士氏にお願いいたしました。世界から見た日本経済、日本の経済の現状と展望、家計への影響など頭の痛い話を抱負なデータをもとにくわしく、そしてわかりやすく、しかも楽しく話していただき、たいへん好評でした。

総会終了後、会員の懇親と一般参加者へのPRをかねて、花見弁当を広げて昼食会をひらきました。講師を囲み、賑やかな懇親会となりました。

事務局長 徳久栄子

UN Women さくら

東日本大震災から早や1年。日本中が復興の真っ最中。被災地の人々の心に寄り添い夢中で走ったUN Womenさくらの支援活動も40回を超えた。衣食住と化粧品（資生堂）等を配布し、その時のニーズに合わせた支援で励ましの努力を実践。3月11日には、これまで様々な支援をして下さった方々に感謝の思いを込めて目黒雅叙園で会合を開催。おひとり、お一人に感謝状をお手渡し致しました。新たな目標として津波で親を亡くした児童を対象に持続可能な支援を昨年4月に仙台市、7月に相馬市、更に教育の絆は子ども達の「心の宝物」という意義を込め

「図書カード」、その他に私が推薦する「読んで為になった本」をキャッチフレーズに掲げ贈本活動を展開。被災校に合わせ岩手、宮城、福島等6校に贈呈。嬉しいお便りも頂いている。本年5月末には亘理町の吉田中学校、長瀬小学校に、また石巻女子商業高校にと続く。一生涯の幸福の土台ともなる「読書の翼」を届け、東北再生に全力投球。

南三陸町の復興の一助として志津川高校の生徒さんが作製したストラップを、UN Womenさくらで販売。3月30日、タンザニア連合共和国とレソト王国



志津川高校の校長・副校長・先生方とともに

の贈り物と一緒に日下校長先生等にお届け。私達の到着する15分前に、チリの大統領が同高校を訪問されていた。前チリ大統領パチエレUN Women事務局長とのご縁を感じる感動的な顔合わせとなった。

広報部

UN Women 大阪

2012年度の総会を3月17日（土）に開催し、UN Women大阪の2年目に向けて、より一層、効果的な活動を展開するための戦略を練っているところです。

総会後には、UN Women（当時はユニフェム）のアフガニスタンでの活動を取り上げたドキュメンタリーである「ソーサンの場合」を上映しました。夫から殺されかねないほどの暴力を受け、子どもと一緒にシェルターに逃げ込んできたソーサンの未来は決して明るくなく、上映後には非常に重い気持ちが残りしましたが、「女性に対する暴力」から逃げるのができず、自立を模索することが難しい点は、日本の状況とも重なるところがあります。UN Womenとしての新たなスタートを機会に、より一層、世界の女性とつながりながら日本の女性のエンパワメントを目指していきたいと思います。



UN Women大阪アジア基金では、ようやく内戦が終了し、インドネシア国内で特別自治区として歩み始めることになったアチェにおける復興と平和構築プロセスへの女性の参加を促す「アチェにおける女性と平和・安全保障」プロジェクトを支援することになりました。

UN Women日本国内委員会のロゴが入った4色展開のTシャツも皆さんから好評をいただいています。ご注文は事務局でお受けしています。夏に向けて、是非、お買い求めください！

会長 三輪敦子

UN Women よこはま

よこはまの新年度は、2月19日の総会で始まり、役員の改選では西村洋子会長の続投で組織の大きな変動もなく順調にスタートしました。恒例の「国際女性デー2012」は、5年目となり、1年前の東日本大震災と同日の3月11日に、フォーラム南太田との共催で「災害と女性～ともに歩む復興への道」と題し、シンポジウムと交流会を開催しました。みやぎジョネット事務局長草野祐子氏からは「被災女性の



サロン活動」でさまざまな支援の試みを、郡山医療介護病院看護部長宗形初枝氏は「郡山からの報告・母と子のサポート」で原発に不安を持つ母子の心と体のケアを、横浜市社会福祉協議会障害者支援センター相川勇氏からは「南相馬市での障害者支援活動」など、体験者でなければ語れない現地の被災状況と復興に立ち向かう被災者の生の声に、一日も早い復興を願いました。3月6日、国内委員会有馬理事長は、第1回横浜市男女共同参画貢献功労大賞を受賞されました。ユニフェムよこはまの初代会長でもあり、記念の「有馬理事長を囲んで、研修会とお茶会」を5月13日に催し、UN Women最新情報を伺い、横浜での新聞記者時代から、長年国内・海外の第一線で「女性の地位向上」に努められた有馬理事長の輝かしい功績に大きな拍手を贈りました。

事業部会長 牧野迪代

UN Women 東京

UN Women東京は、2月15日（水）に開催した総会行事で今年度の活動の幕を開けました。総会記念講演会では、UN Women日本国内委員会理事長有馬真喜子氏から「UN Womenの活動と今後の課題」と題して、国連の2011～13戦略計画について分かりやすく講演していただき、今後の私たちの活動の指針を再確認することができました。講演の詳細は、年3回発行する「UN Women東京 News Letter」の第4号に掲載し、4月早々に全国の会員と関係団体に送付しました。

今年度の広報・啓発活動の新しい試みとして、シリーズ「映画で学ぶ開発途上国の女性たち」がスタートしました。講師は映画評論家・ジャーナリストの松本侑壬子氏。4月の第1回はイラン映画「オフ



サイド・ガールズ」を鑑賞したのち、松本氏から実際の取材にもとづく70年代以降のイランの政治的・社会的変遷や女性の暮らしぶりなど興味深いお話をうかがい、続く活発な質疑応答からも、「サッカー場には入れない」イランの女性たちの元気で積極的な生き方が見えてきました。次回は6月14日、モンゴル映画「ラクダの涙」です。

初夏のチャリティコンサートは、7月1日（日）佐藤美由紀タンゴトリオによる「タンゴ情熱の調べ」、代々木上原ムジカーザにおいて開催。第20回にあたるクリスマスコンサートは津田ホールに天満敦子氏を迎えて無伴奏バイオリンコンサートの企画が進んでいます。

会長 鷺見八重子

UN Women 堺



本年度も堺市内の各イベントにおいて、UN Women日本事務所と協力し、PR活動並び募金活動を展開しました。昨年に引き続き1億人のバレンタインキャンペーンも開催、チョコレートの売り上げの一部をチャリティーとして寄付。また、内閣府の「住民生活に光をそそぐ交付金事業」を堺市で実施するに当たり、その企画運営にUN Women堺が協力しました。この事業は、「3・11東日本震災復興記念、国際女性デー記念 女と男のフォーラム」として開催。「女性への暴力にレッドカード！復興支援にジェンダーの視点を ～東日本大震災被災地からの提言に学ぶ～」をテーマとした講演会とともに、市内の女性たちが中心となって活動するグループからのPRブースが展覧され、UN WomenのPRとともに、女性への暴力防止について参加者全員がレッドカードを持って啓発を行いました。当日は、アーティストの「ミレイヒロキ」さんにもご協力いただき、参加者は、思い思いの花を描き、暴力防止を訴えるとともに、夢や希望の色とりどりの花を咲かせました。

代表 重松加代子

事務局からの報告

■2012年度総会報告

2012年2月25日(土) 午後1時～3時、女性の就業支援センター・コンファランスルームにて開催。2011年度事業報告・決算、2012年度事業計画・予算、定款変更、2012～2013年度理事が承認された。

総会終了後、講演会「UN Women最近の執行理事会の動き」を開催。外務省人権人道課首席事務官高林宏樹氏から、2011年第2回定期会合および2012年第1回定期会合の概略が報告された。

UN Womenの2012～2013年度の予算は140.8百万ドル(1億4080万ドル)。戦略計画では6項目の優先テーマを掲げ、フィールドの活動を重視し、組織の効率性・有効性追求に取り組む姿勢に、日本をはじめ執行理事国から賛意を得たとのことである。

2011年度決算報告(2011年1月1日～12月31日) 単位:円
一般会計

| ■収入の部 | | ■支出の部 | |
|--------|------------|--------|------------|
| 会費収入 | 2,475,000 | 拠出金 | 6,584,472 |
| 事業収入 | 0 | 事業費 | 9,248,282 |
| 寄付金収入 | 18,717,448 | 管理費 | 4,023,449 |
| 升本基金繰入 | 2,600,000 | | |
| 雑収入 | 870 | | |
| 当期収入合計 | 23,793,318 | 当期支出合計 | 19,856,203 |

升本基金

| ■収入の部 | | ■支出の部 | |
|-------|--------|---------|-----------|
| 利息 | 23,108 | 一般会計に繰出 | 2,600,000 |

| | |
|----------|------------|
| 当期収支差額 | 1,360,223 |
| 前期繰越収支差額 | 11,988,448 |
| 次期繰越収支差額 | 13,348,671 |

■2012年度国内委員会連絡会の開催

イギリス国内委員会主催で9月11日～14日、ロンドンで開催予定。テーマは国内委員会アクションプラン、企業等との連携、ファンドレイジングについて等。日本から理事2名が参加する予定である。

■東日本大震災特別募金寄付者一覧

(前回掲載以降2011.9.1～12.31)

五十嵐康子 樽谷文代 群馬婦友会 国際ソロプチミスト北九州 時實達枝 UN Womenよこはま

■寄付者一覧(前号掲載以降2011.9.1～2012.6末現在)

富澤知子 ビューティショップK 大西珠枝 資生堂花椿基金 ㈱資生堂 稲田和永 上里町女性会議 有馬真喜子 UN Women多摩 菅野和夫 リンクル化粧品 ㈱ソシア 諸井暢子 エイボン・プロダクツ㈱ 十文字学園生活協同組合 UN Womenよこはま UN Womenさくら UN Women佐賀 UN Women大阪 UN Women東京 UN Women堺 中島明子 コトウダユミコ UN Women北九州 彩歩の会 SI京都 中央労働金庫 山本美智子 牧志泰三 斉藤京子 大沼もと子 池田路子 全国友の会 群馬婦友会 国際ソロプチミストアメリカ日本西リジョン 佐藤飽人 資生堂健康保険組合

■正会員団体 19 団体(2012.6末現在)

〈団体〉(財)アジア女性交流・研究フォーラム NPO法人一冊の会 (財)大阪市女性協会 群馬婦友会 国際婦人年連絡会 堺市女性団体協議会 (財)佐賀県女性と生涯学習財団 NPO法人参画プラネット 全国友の会 ソシエテ彩 UN Women堺 UN Womenさくら UN Women多摩 UN Women東京 UN Womenよこはま (財)横浜市男女共同参画推進協会

〈企業〉イオン1%クラブ (株)高島屋 日本たばこ産業㈱

■正会員個人40名(前号掲載以降新会員2012.6末現在)

奥田美智代 高橋克子

■賛助団体14団体(2012.6末現在)

〈団体〉イエローライン (財)京都市女性協会 久留米市男女平等推進センター (社)国際女性教育振興会茨城県支部 越谷ミズの会 (財)せんだい男女共同参画財団 (社)大学女性協会静岡支部 にいがた女性会議 日本生活協同組合連合会 浜松市男女共同参画推進センター プロジェクトILD 北翔大学同窓会淑草会

〈企業〉(株)グッドバンカー (株)電通

■賛助個人143名(前号掲載以降2012.6末現在)

大西珠代 黒岩秩子

(NPO法人) UN Women 日本国内委員会

旧称:ユニフェム(国連女性開発基金)日本国内委員会

事務局

〒244-0816 横浜市戸塚区上倉田町435-1

男女共同参画センター横浜内(フォーラム)

・TEL. FAX. 045-869-6787

・Email unwomennihon@adagio.ocn.ne.jp

・ホームページ http://www.unwomen-nc.jp

●交通のご案内 JR・横浜市営地下鉄「戸塚駅」下車、徒歩7分

